

聖書から読み解く巨大な潮流

2009年10月30日 アシェル・イントレーター

現在世界中で多くのことが起こっていますが、それらは懸念させるものです。しかし一方では勝利への大いなる希望があります。一般的に悪いことはさらに悪く、良いことはさらに良くなります(イザヤ60:2)。この終わりの時に世界に影響を与える7つの巨大な潮流を見るために、聖書の中から7つ、「すべて、みな」または「あらゆる」という言葉がある個所を見てみましょう。

I. 神に反する世界政府

黙示録 13:7「彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。」

悪であり、暴力的な国際連合が生まれるでしょう。それは各国の政府を支配し、真の信者への迫害を促すでしょう。

II. 栄光に満ちた諸国の教会

黙示録 7:9「その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。」

同時に、諸国の真の信者共同体が今まで以上に増大するでしょう。彼らは霊的な清さと道徳的な誠実の中を歩み、それぞれの文化や言語を用いて自身の信仰を表現し、聖霊の臨在の中で礼拝するでしょう。彼らの待ち望む信仰は地上にメシアを再臨させることになるでしょう。

III. 悪の世界宗教

黙示録 13:8「地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者はみな、彼「獣」を拝むようになる。」

悪の世界政府にはまた宗教的な側面を持ちます。それはこの暴力的な宗教への礼拝を強要するでしょう。世界中の真の聖徒らはこの強制に従わないでしょう。しかし、信仰、理解、そして勇気がない者は屈してしまうでしょう。

この悪の宗教への礼拝を強要は、ネブカデネザルによって作られた像のようで、もし礼拝を拒絶するならば、炎の炉から奇跡的に救い出された3人のユダヤ人の廷臣のようになるのです(ダニエル3章)。

IV. 聖霊の注ぎ

使徒 2:17 「神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。」

神を信じない者が悪の獣を拝むと同時に、神に従う者たちの間では大いなるリバイバルが起こります。終わりの時の「ペンテコステ」では聖霊の炎が世界中至る所に注がれるでしょう。諸国の真の教会やコングリゲーションは使徒 2 章(ヨエル 2-3 章)にある第1世紀のユダヤ人信者が経験した同じ種類のリバイバルを経験するでしょう。これには預言、癒し、そして奇跡が伴うでしょう。

V. イスラエルでのリバイバル

ローマ 11:26 「イスラエルはみな救われる」

使徒 2:17 の「すべての人」は、ローマ 11:26 の「イスラエルはみな」とつながっています。世界中で霊的なリバイバルが起こる時、イスラエルでも同様のことが起こります。第1世紀のリバイバルはイスラエルだけで起こりましたが、最後の世紀のリバイバルはイスラエルと世界各国で起こります。

現在、イスラエルには活気に満ちたメシアニックジューのレムナント(残りの人々)がいます。このレムナントは「臨界人数*」に達するまで成長します。そして、世界的な終わりの時のペンテコステが燃え広がります。影響は双方向に及びます。諸国の霊的な注ぎがイスラエルにリバイバルを起こし、イスラエルでの油注ぎは諸国にリバイバルを起こします。

*critical mass は物理学用語で「臨界質量」「臨界量」ですが、ここでは人数なので、「臨界人数」と意識しています。

VI. 反ユダヤ主義と反シオニズムの増大

ゼカリヤ 14:2 「わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。」

悪の連合政府はただ暴力的な犯罪、聖徒らへの迫害、そして偽宗教への参拝を強要するだけでなく、イスラエルに対して嘘や反ユダヤ的プロパガンダに人々の関心を集中させます。反シオニスト・プロパガンダの増加はエステル書にあるハマーンがユダヤ人を全滅させようとしたようになるでしょう。

最終的にそれはすべての国が一致してイスラエルの宗教的、政治的な首都であるエルサレムへの攻撃を促すでしょう。この最終戦争は世界の悪の頂点をなす行為であり神と主のメシアに対する最終的な反抗行為となります(詩篇 2 章)。この時、イエシュア(イエス)は再臨しエルサレムを攻撃した諸国に対して戦います。

この戦争はイエシュアが諸国を裁くという内容となります。彼らに対する主の戦いは裁きの一部なのです。ネタニヤフ首相が国連でスピーチしたように、諸国はイスラエルと共に立つのか、それともテロリストと共に立つのか決めなければなりません。

VII. キリスト教のユダヤルーツ

ゼカリヤ 14:16 「エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。」

すべての国がイスラエルを攻撃する一方、それらの諸国のすべての人々がそれに同意しているわけではありません。まったくその反対です！各国には神に対して忠実であり、清い行き方をし、イスラエルと共に立つ霊的なレムナントがいるのです。

再臨の前に、諸国の教会とイスラエルのメシアニックジューのレムナントは一つに「接ぎ木」されます（ローマ 11 章）。この「接ぎ木」は信仰と契約の一部でありイエシュアを受け入れ、そしてエルサレムから世界を治めるのです（イザヤ 2:1-4, ミカ 4:1-5, 黙示録 11:15, マタイ 6:10）。

「注：最近の国際会議において、アグローの代表であるジェーン・ハンセン・ホイット氏は、ホロコースト時にユダヤ人が身につけるよう強要された黄色い「ダビデの星」と良く似たシールを配りました。この強烈的な行為において、ジェーンは、真の信者はたとえ死に至るとも、反ユダヤ主義と反キリストに対抗して立つべきであると語りました。この同じ会議の最初の方で、壇上でビクトル・カレル師（元イスラム教徒のエジプト・アラブ人）と私は互いに抱擁し、和解とイエシュアのみにある契約的な愛を表現しました。」

参考：アグローのブログに、イントレーター師と、「ダビデの星」のシールを持つハンセン・ホイット氏の写真が載っています。英語の読める方は、ブログをお読み下さい。（2009年10月25日の記事です）
<http://aglowblogs.org/conference/>